

あの頃、思い出の現場

釜石港平田地区作業基地積出施設工事その2

みらい建設工業株式会社 取締役兼常務執行役員管理本部長 森田 正弘氏

若き日、根っこを作ってくれた所長の薫陶

「今の私の根っこを作ってくれた現場です」。森田氏が懐かしげにそう語るのは、今から30年ほど前に岩手県釜石市で携わった「釜石港平田地区作業基地積出施設工事その2」。

入社して3年目。次に配属される現場が決まっていたのに、人手が足りずに急ぎよ呼ばれて行ったのがこの現場だった。実はそこに、運

命的な出会いが待っていた。列車を乗り継いで釜石駅に降り立つと、迎えに来て

くれていたのが、現場の宮川昌哉所長。「飯は食ったか？」と聞かれ、「汽車の中で済ませました」と答えると、「それならよし」と、旅館に荷物を置き、事務所にも立ち寄ることなくいきなり現場に連れて行かれた。

結局その日は、深夜まで現場でみっちり測量の作業をさせられた。

「とんでもないところへ来てしまった」。そう思ったのもつかの間、次のとんでもないことが早速、次の日

に起きた。宮川所長と同期入社の同僚、そして森田氏の3人が宿舎にしていた旅館から、毎日の食事などの時間があまりに不規則過ぎるといつて追い出されてしまったのだ。だが、捨てる神あれば拾う神あり。幸い、事務所で働いていた女性事務職員の計らいで親戚の家に3人を布団付きで下宿させてくれた。初めての土地で受けた地元の人々の情が胸に染み込んだ。

工事は岸壁にボックスカルバートを造り、ダンプが入る道路を整備するもので、工程の厳しい突貫工事だったが、不思議とつらいとは思わなかったという。毎朝、下宿を出て現場に向かうと、海をバックに朝日を浴びた仕事場が視界いっぱい広がる。自分で墨出しをした

り測量をしたりしたところが少しずつ形になり、風景が少しずつ通りになり、風景が思い描いた通りに毎日変わっていく。「現場はダイナミック。それがとにかく楽



森田 正弘氏 (もりた・まさひろ)

1981(昭和56)年法政大学工学部土木工学科卒、大都工業(現みらい建設工業)入社。2004(平成16)年管理本部経営企画室課長、2009(平成21)年社長室部長、2011(平成23)年管理本部総務人事部長、2012(平成24)年管理本部経営企画部長、2016(平成28)年執行役員施工本部副本部長、2018(平成30)年取締役兼常務執行役員管理本部長。東京都出身、61歳。

に起きた。宮川所長と同期入社の同僚、そして森田氏の3人が宿舎にしていた旅館から、毎日の食事などの時間があまりに不規則過ぎるといつて追い出されてしまったのだ。だが、捨てる神あれば拾う神あり。幸い、事務所で働いていた女性事務職員の計らいで親戚の家に3人を布団付きで下宿させてくれた。初めての土地で受けた地元の人々の情が胸に染み込んだ。

「あんな現場での経験は、自分にとっては宝物です」。その後、各地で多くの現場を手掛ける中、「宮川所長は私が目標とする超一流の技術者。宮川所長に合格点をもりたい」と常に思いながら仕事をしていた」と振り返る。現在は管理本部長として現場の最前線に関わることはなくなりましたが、「今でも安全パトロールなどで現場に行くと、そのダイナミックさと、そこで働く人たちの生真面目さに当時のことを思い出し、心を揺さぶられます」。

「あんな現場での経験は、自分にとっては宝物です」。その後、各地で多くの現場を手掛ける中、「宮川所長は私が目標とする超一流の技術者。宮川所長に合格点をもりたい」と常に思いながら仕事をしていた」と振り返る。現在は管理本部長として現場の最前線に関わることはなくなりましたが、「今でも安全パトロールなどで現場に行くと、そのダイナミックさと、そこで働く人たちの生真面目さに当時のことを思い出し、心を揺さぶられます」。



釜石の現場で。右が宮川所長、左が共に試験勉強に励んだ同期入社坪木慎二氏